



新型コロナウイルスにかき回されて一年半以上が経ちました。日本人の忍耐深さ、真面目さ、忠実さには、改めて驚かされ、誇りを抱きます。私たちが常に気を付けていることは、弱者・病者・障害者・高齢者が犠牲にならないことです。気がかりなことが続いています。

それは、今年の2月から8月20日までの1093例の新型コロナウイルス接種後の死亡者が、殆ど「ワクチンとの因果関係不明」となっていることです。国や専門家は「健康被害のリスクを踏まえてもメリットが圧倒的に上回る」とワクチン接種を推奨し、「健康被害が予防接種によるものであると厚生労働大臣が認定したときは、予防接種法に基づく救済（医療費・障害年金等の給付）が受けられます」と安心を強調してきました。救済は予防接種との因果関係が認定されなければ受けられないので、実際には救済されていないのです。8月19日に厚生労働省の専門分科会は、新型コロナウイルスワクチン接種による健康被害について、審議した41名のうち29名を初めて認定しました。死亡や障害をもった事例は因果を認めていません。厚生科学審議会が公表している死因を一つ一つ見ていくと、「心不全」「心肺停止」としたものが何度も登場してきます。その「心肺停止」をもたらした原因としての傷病名がないのです。しかし、「遺族の声を聴くと、「新型コロナウイルス接種以外には原因が考えられない。」というものが多くあります。それなのに検証がされないのです。「健康被害のリスク」を隠しているだけなのです。

予防接種法に基づく予防接種を受けた方に健康被害が生じた場合、その健康被害が接種を受けたことによるものであると厚生労働大臣が認定したときは、市町村により給付が行われます。健康被害救済給付の請求は、健康被害を受けたご本人やそのご家族の方が、予防接種を受けたときに住民票を登録していた市町村に行います。請求には、予防接種を受ける前後のカルテなど、必要となる書類があります。

予防接種をする場合には、医師の問診を受けるのは当然ですが、接種後に体調や状況などを記録し、体調が悪くなった場合には速やかに医師に相談することが大事です。当院では、新型コロナウイルスワクチンの接種はしていませんが、接種後の体調悪化については、遠慮なくご相談ください。我慢しているうちに動けなくなり体調が急変した症例などを聞いております。大量ビタミンCの点滴は、かなり効果があると確認しております。混乱の中、皆さんのご健康と平安をお祈りいたします。

事務長 柏崎久雄

感染症で受診される方へ

発熱やくしゃみ・咳症状のある方、水ぼうそう等伝染性疾患のこどもの方は、入口、待合室・診察室、会計の流れが異なります。また、トイレ後のハンドソープによる手洗いに協力ください。

★ 入口

正面入口横の中央通路のインターホンを押してください。

★ 待合室・診察室

2階の、第二待合室です。

★ 会計

疾患によっては、廊下会計となる場合があります。

ヨーゼフのキャンペーン

へム鉄α・Fe8、亜鉛プラス

10月1日～11月10日

健康の為に必須なミネラルです。

聖書を読む会 10/12(火)13時40分

- * 10月5日(火)は午後の診察は15時からです。
- * 新型コロナウイルスの感染が警戒されています。院内に入る前にマスクを付け、入り口に置いてあるアルコール消毒薬で手を十分に殺菌してください。トイレは待合室毎に指定の所をご利用ください。新型コロナウイルス検査をご希望の方、濃厚接触者の方は、院内に入らず、事前に電話でご相談ください。新型コロナウイルスの接種を当院ではおこないません。
- * インフルエンザワクチンが10月から始まります。ネットでご予約ください。14時～15時は予約不要です。時期や曜日によって料金が異なります。院内掲示かHPでご確認ください。
- * 熱のある方や前日まで発熱のあった方、熱が無くても味覚嗅覚に異常のある方は、ホームページからのネット予約、ウェブ問診をお済ませの上、予約時間にご来院ください。来院時は裏のインターホンでお知らせください。
- * 予約診療を来院による普通診療と並行して受け付けています。ウェブ問診も始まっています。受診時に記入する問診票を事前入力できます。オンライン診療もおこなっております。ホームページ下のタブより申し込んでください。電話再診もご利用ください。
- * 乳幼児健診と特定健診は平日予約だけを受け付けています。
- * 病児保育は、他院で受診しても、当院院長の診察を必須条件として利用していただけます。

< 新型コロナウイルスとワクチンの新情報 3 >

新型コロナウイルスへの不安や関心が強いと思われますので、引き続きコロナ情報です。

1. 新型コロナウイルスへの新しいワクチン開発について

- a. 不活化ワクチン、組換えタンパクワクチン、ペプチドワクチンは、不活化した新型コロナウイルスの一部やウイルスの一部のタンパクを人体に投与し、それに対して免疫が出来る仕組みです。
- b. メッセンジャーRNA (mRNA) ワクチン、DNA ワクチン、ウイルスベクターワクチンは新型コロナウイルスの遺伝情報をそれぞれメッセンジャーRNA、DNA プラスミドとして、あるいは別の無害化したウイルス等に入れて、人に投与するものです。それが、人の細胞に入り、ウイルスのタンパク質を作ることによってウイルスのタンパク質に対して免疫が出来る仕組みです。

現在、国内で開発が進められているコロナワクチンは、b では、①mRNA の第一三共と東大医科研のもの、②アンジェス、阪大、タカラバイオの DNA ワクチン、③mRNA の VLP セラビューティクスものがあります。本院としては、b の遺伝子ワクチンは勧めておりませんので、a のワクチンを紹介します。

① 塩野義製薬・感染研・UMNファーマ (組み換えタンパクワクチン)

ウイルスのタンパク質 (抗原) を遺伝子組み換え技術で作成して人に投与

2021 年末までに 3000 万人分の生産体制構築を目標

② KMバイオロジクス・東大医科研・感染研・基盤研 (不活化ワクチン)

不活化したウイルスを人に投与 (従来型のワクチン)

2021 年内に第Ⅲ相試験を開始予定。生産体制等緊急整備事業

③ ノババックス・武田薬品 (組み換えタンパクワクチン)

国内治験は 2021 年 2 月から実施され、9 月に契約がされて 2022 年初頭に接種開始予定。

2. ワクチンについて

A. これまでのワクチンとは

コロナワクチンに限らず、現在全てのワクチンは任意接種です。ただ、BCG やポリオなどのワクチンは一定の年齢になると接種を勧められる「定期接種ワクチン」であり、インフルエンザワクチンなどは「任意接種ワクチン」です。ワクチンには以下のものがあります。

- ① 「生ワクチン」 弱った病原体をそのまま使う。
- ② 「不活化ワクチン」 病原体は死滅して、活動しなくなったものを使う。
- ③ 「トキソイドワクチン」 病原体が持っている毒素だけを無害化して使う。

これらに、④遺伝子ワクチンが付け加えられたのです。

B. アジュバントとは

アジュバント (Adjuvant) は、ワクチンと一緒に投与して、その効果 (免疫原性) を高めるために使用される物質のことです。生ワクチンやそれに準ずるワクチンが主として用いられていた時代にはワクチン自体が十分な効果が得られていたので、原則的にアジュバントは必要とされませんでした。しかしトキソイドワクチンや不活化ワクチンにおいては、ワクチン単独では効果が十分ではないため、アジュバントの添加が必要となります。

アジュバントには、①抗原を不溶化することで組織に長くとどめ、抗原を徐々に長期間遊離させる、②投与局所に炎症を起こし、マクロファージが集まり抗原が貪食 (食作用) されやすくなり、抗原提示が効果的に行われるようにする、③投与局所や所属するリンパ節の、T 細胞や B 細

胞の活性化を強めるなどの働きがあります。

昨今のワクチン開発は感染症という対象疾患の枠を超え、がんやアルツハイマー、糖尿病や高血圧などの生活習慣病、花粉や食物のアレルギー、自己免疫疾患などの“非感染症”疾患にまで広がりを見せております。しかし、こうした“非感染性”疾患のワクチンのターゲットは免疫反応が誘導できず治療効果が低いのです。そのような場合でも強い免疫反応をおこすことができるアジュバントは、今後のワクチン・免疫療法における“鍵”になるようです。

代表的なアジュバント

① アルミニウム

ワクチンと一緒に投与することで、免疫機能を発現させます。要するに、身体にとって毒ということですが、骨・骨髄・脳の変性を起こす可能性があります。

② 水銀

チメロサル（下記）は、インフルエンザワクチン、日本脳炎ワクチン、B型肝炎ワクチン、（破傷風ワクチン）、（ジフテリアワクチン）、などに含まれています。括弧は改良。

③ 第二世代のアジュバント

病原体のセンサーに結合する病原体成分のリポタンパク、リポ多糖、鞭毛、核酸などが開発されています。最近では、目的の場所・細胞に認識できるようにドラッグデリバリーシステム（DDS）技術を取り入れたアジュバント物質の開発も盛んです。細胞に似たリン脂質成分からなる微小カプセル（リボソーム）やナノ粒子などの表面上や粒子内にアジュバントを付与することで、より効率的かつ安全に免疫反応を起こすことが可能となります。

などと、説明されていますが、**要するにアジュバントは危険だったということ**です。

※ インフルエンザワクチンの殺菌・防腐剤としてのチメロサル（エチル水銀チオサリチル酸ナトリウム）は、人体には悪影響を与えないとされていますが、実際には過敏症を起こす方もおり、子供たちへの接種の安全性は懸念されています。チメロサルなどに含まれている水銀や重金属と発達障害の因果性について指摘する文献も多くあります。当院では、1回接種用シリンジに入った、チメロサル非含有のインフルエンザワクチンになるべく多く仕入れています。数に限りがあります。ご注意ください。

C. 遺伝子ワクチンの特性

ワクチンのmRNA（スパイクタンパク質形成指示体）がヒト細胞と融合し、細胞の中のリボソームに進みます。リボソームは、mRNAの情報によってタンパク質を作り、このタンパク質が細胞から漏出して、ウイルスと同じようなスパイクを形成します。免疫系は、スパイクタンパク質を認識すると、それに反応して抗体を生成します。

この遺伝子ワクチンにはアジュバントがありません。つまり、形成されるスパイクタンパク質自体に、免疫を刺激する強い作用があるということです。

D. 遺伝子組み換えタンパクワクチンとは

遺伝子組換えタンパクワクチンは、ウイルスの遺伝子情報から目的とする抗原タンパクを発現・精製後に、アジュバント（ワクチンの効果を高める物質）を添加して投与されます。遺伝子情報そのものを投与し、体内にて抗原タンパクを合成させる mRNA ワクチン等の新規技術と比べて、抗原発現や精製に一定の開発期間を要する一方で、BEVS（Baculovirus Expression Vector System：昆虫細胞などを用いたタンパク発現技術）を活用したインフルエンザ予防ワクチンをはじめ、複数の製品がその効果と安全性を基に承認・実用化されている確立された技術です。

E. 経鼻ワクチンとは

経鼻ワクチンの特徴としては、従来の注射による痛みがなく、感染部位である呼吸器粘膜ならびに全身に対して効果的に免疫を誘導することができ、高度な医療体制や医療従事者による投与を必ずしも必要としないという点が挙げられます。そのため、医療環境が整っていない地域においても使いやすい製剤となることが期待されます。

3. 新型コロナウイルスに対する栄養医学の治療法

A. 高濃度ビタミンCの点滴

新型コロナウイルス感染症の重症者では、ビタミンCの血中濃度が低下することを報告する論文が発表されています。これは、新型コロナウイルスによって引き起こされる炎症反応に対し、体内で大量のビタミンCが必要とされていることを表します。ビタミンCは新型コロナウイルス感染症に対する効果的かつ安価な補完治療のひとつとして期待されていますが、日本をはじめ世界中の多くの国では、新型コロナウイルス感染症におけるビタミンC補給の有用性が公的に認められていません。そのような中、英国の特定非営利活動法人 ANH (Alliance for Natural Health: ナチュラルヘルス同盟) が 'VITAMIN C for COVID (コロナウイルスにビタミンCを)' という署名運動を行っています。マリヤ・クリニックもこの運動に賛同しています。

B. ビタミンCと免疫

ビタミンCは免疫細胞の活性を高めます。例えば、好中球やマクロファージの貪食能を高めたり、リンパ球の一種でウイルスなどを殺傷する機能を持つNK (ナチュラルキラー) 細胞やキラーT細胞を活性化したりする他、抗体の産生にも必要です。

また、免疫細胞が病原体を死滅させる際には活性酸素が生じます。活性酸素は好中球やマクロファージといった食細胞が病原菌を殺菌するためにも必要なのですが、増えすぎると免疫細胞を含め私たち自身の細胞や組織にもダメージを与えてしまいます。ビタミンCにはこの活性酸素を処理する力(抗酸化作用)があります。つまり、免疫細胞を活性化させるだけでなく、免疫細胞が病原菌と戦う場にビタミンCなどの抗酸化物質が豊富にあれば、活性酸素のダメージから自身の組織や細胞を守ることができ、免疫細胞の活性低下も防ぐことができます。

ビタミンCは、炎症性サイトカインの過剰な産生を防ぎ、炎症反応の進行を抑制するためにも働くため、風邪を引いているときや炎症が起こっているときにはタンパク質やビタミンCの消費量が増大するのです。

C. タンパク質と免疫

免疫細胞の主体は白血球で、マクロファージ、好中球、リンパ球などから構成されています。マクロファージや好中球は、細菌・真菌・ウイルスを処理します。リンパ球は、主にウイルスなどの微小な病原体を処理します。これらの免疫細胞の主な材料となるのがタンパク質です。また、タンパク質は20種類のアミノ酸が鎖状につながったものですが、アミノ酸自体にも免疫と深い関わりがあります。例えば、グルタミンというアミノ酸はリンパ球、好中球、マクロファージといった免疫担当細胞のエネルギー源となることで、免疫能の維持に欠かせません。さらに、免疫細胞の60%が腸に存在すると言われていますが、グルタミンはその腸の粘膜細胞のエネルギー源となり、免疫系の最前線で働く腸の腸管バリア機能を維持するためにも必須のアミノ酸です。また、アルギニンというアミノ酸は殺菌効果を担うNO(一酸化窒素)を生成し免疫細胞がウイルスや病原菌を攻撃する力を強めます。

D. 鉄と亜鉛

新型コロナウイルスの症状の一つが血中酸素濃度の低下です。鉄が不足すると赤血球(ヘモグロビン)が減少し、全身に十分な酸素が行きわたらなくなり、脳を含め全身に様々な症状が現れやすくなります。また、亜鉛はDNAやタンパク質の合成に関わり、細胞を作るために欠かせないことから、消化管粘膜や皮膚など細胞分裂の盛んな組織には特に重要なミネラルです。鉄も亜鉛も身体が正常に機能するために欠かせないミネラルです。

〈診療時間〉 休診日 木曜、日曜、祝日、年末年始
月曜～金曜(午前8時30分～11時30分、午後2時～5時10分)
土曜 (午前8時30分～11時30分、午後2時～4時半)

- ・各種健康保険取扱機関
- ・生活保護指定機関
- ・介護保険取扱機関
- ・特定疾患取扱機関
- ・結核予防法指定機関
- ・自立支援医療機関
- ・身体障害者認定医
- ・各種健康診断
- ・小中台小学校校医
- ・栄養医学(分子整合医学)
- ・病児保育ノア運営



(携帯サイトへ)